

# 第48期 事業レポート

2016年4月1日 — 2017年3月31日



新日本空調株式会社

証券コード 1952

## トップインタビュー



代表取締役社長

夏井 博史

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

### Q1 まず当期の業績についてお聞かせください。

中期経営計画の最終年度である当社グループの当期の業績は、受注工事高は1,114億3千5百万円（前期比5.0%増）、完成工事高は1,012億2百万円（前期比4.0%増）となりました。また、手持工事量は大幅に増加し、グループ全体の次期繰越工事高は844億8千6百万円（前期比15.6%増）となりました。

利益面におきましては、受注環境が堅調に推移したこと、完成工事高の増加に加え、グループ全体での利益創出活動を行った結果、完成工事総利益は108億9千9百万円（前期比10.5%増）、営業利益は38億9千7百万円（前期比14.4%増）、経常利益は42億1千7百万円（前期比13.9%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は29億3千4百万円（前期比24.6%増）となりました。

### Q2 中期経営計画「究極真価プラン2016」が終了しましたが、総括をお願いします。

2014年度からの取り組みの成果として、一つ目の経営課題とした顧客信頼度の究極真価において、「ワンストップソリューションの体制推進」につきましては、産業施設設備分野の工事に強みを持つ日宝工業(株)の株式を取得し、同社を子会社としました。また、ジャパンパイル(株)と業務提携を行い、「地熱トルネード工法<sup>®</sup>」という基礎杭の施工と採熱チューブの同時埋設を実現した地中熱利用技術を開発しました。

「アジアを拠点としたグローバル戦略の推進」につきましては、シンガポール現地法人にミャンマー支店およびカンボジア

支店を、スリランカ現地法人にモルディブ支店をそれぞれ開設しました。さらに、中国の上海現地法人では、重慶市で日系総合設備企業としては初となる支店を開設しました。

そして、技術の継承と先進技術の訴求展開という経営課題のもと、「培った技術の継承と高度化推進」においては、「柔ワイヤ工法<sup>®</sup>」という施工時間を大幅に短縮する制震・制振補強技術を開発し、また、現場ICTの運用を2014年7月より本格的に開始しました。

「顧客ニーズ、事業ニーズに基づく技術開発の強化」では、微粒子可視化技術を展開した製品のラインナップの充実をはじめ、熱源最適制御システム「Energy Quest<sup>®</sup>」、浸水対策用止水ダンパ「水断羽<sup>みずだんば</sup>」などを開発しました。また、ショールーム「SNK e-Labo」を開設し、再生可能エネルギーや未利用エネルギーと先端省エネ技術の融合を図るZEB化技術開発の取り組みを推進しました。

### Q3 2017年度からスタートする新しい中期経営計画について教えてください。

新中期経営計画は、新日本空調として設立50周年を迎える2019年を来たる次世代の50年間に向けた「飛躍の年」と位置付け、当社創業90年となる2020年以降の近未来に当社グループがパイオニアとして培ったDNAと成長ベクトルを繋ぐ3ヵ年経営計画『SNK Value Innovation 2020』を策定しました。

新中期経営計画は、前中期経営計画から2020年代に繋げる仕上げの3ヵ年であり、前計画で掲げた経営課題への取り組み継続を念頭に環境変化に適応した新たな施策を行うもので、その基本方針を「地球環境の保全と持続可



能な地球社会の実現に貢献する環境ソリューションカンパニーとして、顧客や社会の要請に応え、2020年代への持続的成長と新たな企業価値の創造を目指す」と決めました。

当社グループの総力を挙げて追求してきた「SNK 技術力」にさらに磨きをかけ、顧客ロイヤルティの向上を確実なものとするため、空調エンジニアリング力を中核としたワンストップソリューションの推進と多面的展開、成長事業分野と海外等の事業領域拡大、安全と品質を重視したモノ作りの原点に還った設計施工技術開発とその伝承に努めるとともに、IoT、AI等の情報技術革新をベースとした最新技術開発を行います。また、それを実現する経営基盤においては、人材の多様化、主体性・創造性・協調性にあふれた人材育成と社員総意のワーク・ライフ・バランスを実現し、コンプライアンスの徹底と透明性の高い経営基盤の維持向上を行い、激変する社会への対応と開かれた企業体質のさらなる進化を図ります。

### Q4 最後に、株主の皆さまへメッセージをお願いします。

当社グループは、前々中期経営計画（2011～2013年度）において、質と量のバランスを見極めた活動を推進し、経営基盤の安定化を図りました。前中期経営計画（2014～2016年度）においては、経営基盤をさらに盤石にするため、顧客ニーズに的確に応えた「SNK品質」の究極真価を目指した結果、経営基盤の安定および拡大のみならず、2011年度より掲げてきた「景気変動に左右されない筋肉質な収益体質」に転換することができました。

新中期経営計画では、成長戦略および基盤戦略を確実に実行し、2020年代への持続的成長と新たな企業価値の創造を目指していきます。また、中長期的視野での経営体質強化および新事業展開等を図るための研究開発や設備投資等を勘案しつつ、今まで以上に収益性や効率性向上に努めることにより、最終年度においてROE8.0%を目標とします。

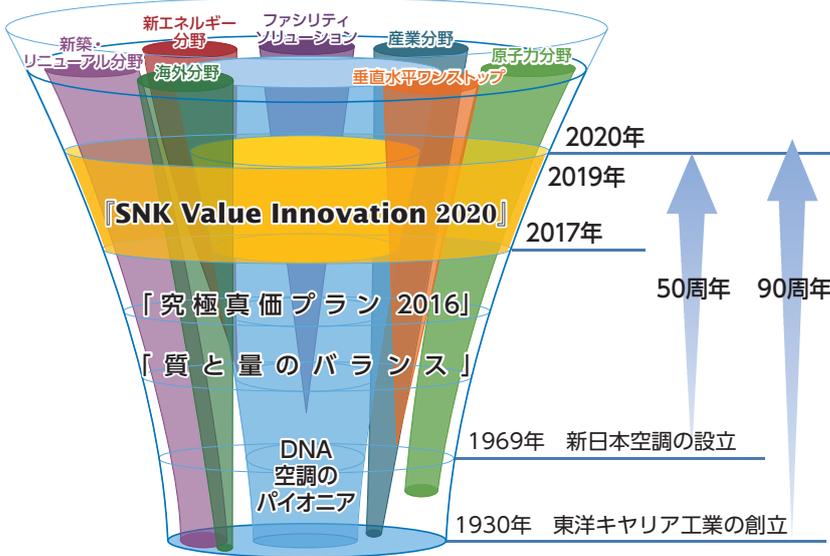
なお、配当につきましては、当社グループの中長期的な成長に向けた事業展開、経営基盤の強化等を図りながら、連結配当性向30%以上を目標として安定的な配当を実施していく方針としております。

株主の皆さまには、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 【SNK Value Innovation 2020】

基本方針	地球環境の保全と持続可能な地球社会の実現に貢献する環境ソリューションカンパニーとして、顧客や社会の要請に応え、2020年代への持続的成長と <b>新たな企業価値の創造</b> を目指す	
成長戦略	顧客ロイヤルティの向上に向けた成長戦略の展開と推進	安全・品質確保と生産性向上に向けた設計施工技術と情報技術の融合
基盤戦略	透明性の高い経営基盤の構築と社会ニーズに沿った経営資源活用の健全化	

### ■ 「SNK Value Innovation 2020」の目指す姿



### ■ 連結経営数値目標

(単位:百万円)

損益	2017年度 予想	2018年度 目標	2019年度 目標
受注工事高	112,000	115,000	120,000
完成工事高	110,000	115,000	120,000
完成工事総利益	11,500	11,900	12,300
営業利益	4,200	4,400	4,600
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,000	3,200	3,400

## トピックス

### 一般建物用止水ダンパ「<sup>みずだんば</sup>水断羽」を開発

当社は、防火・排煙設備メーカーのニッケイ(株)、ダンパメーカーの(株)三功工業所と共同で止水ダンパ「水断羽」を開発しました。

近年、ゲリラ豪雨や洪水の被害が増加しているなかで、建物への浸水対策を施す事例が増えています。建物における外部開口の一つである外気取り入れ口や排気口に接続するダクトを介した建物への浸水を防止することは、BCP(事業継続計画)の観点から必要な機能と考えられます。

本製品は、主に発電所などのプラント施設において津波からの浸水を防止する「ジャバツ Shut」(2013年当社開発)の止水原理をベースに、ゲリラ豪雨や洪水の浸水対策用として一般建物向けに開発したものです。外気取り入れダクト、排気ダクト系統に設置され、ダクト内へ水が浸入すると、検知水槽で浸水を検知し、自動的に止水板を閉止して浸水をブロックします。浸水検知から止水動作まで電気や空気等の動力源を必要としないため、

停電時でも確実に作動します。また、ダクトが満水にならない段階でも止水性能が維持できるように止水部を斜めにし、止水板の重みを活用するしくみになっています。



みずだんば  
水断羽

ビッグルーフ滝沢 岩手県



東京精密八王子第6工場 東京都



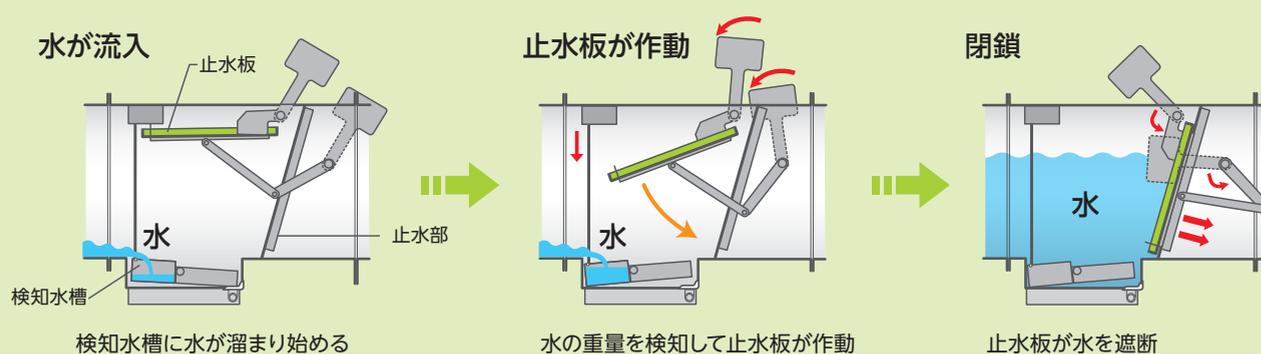
京都大学 (南部) iPS細胞研究所第3研究棟 京都府



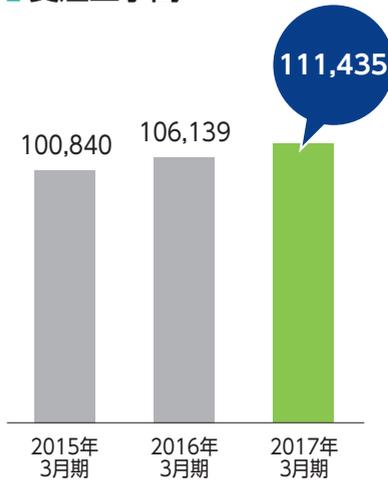
ロイコー総合病院 ミャンマー・カヤー州

当社は、本製品を地下の重要設備や電気室などの浸水リスクがある空間や施設に提案することで、災害に対する施設の健全性維持やBCP対策に貢献していきます。

## 水の浸入による止水板の動き



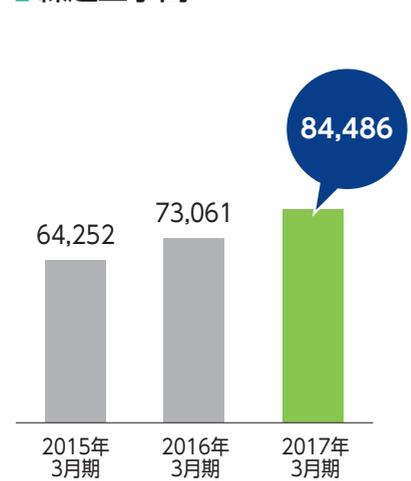
## ■ 受注工事高



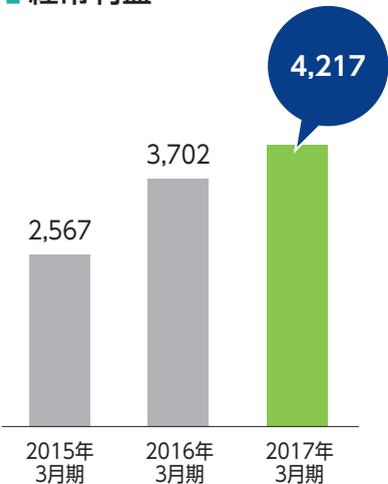
## ■ 完成工事高



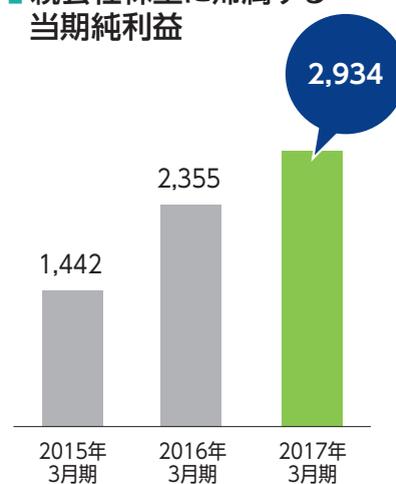
## ■ 繰越工事高



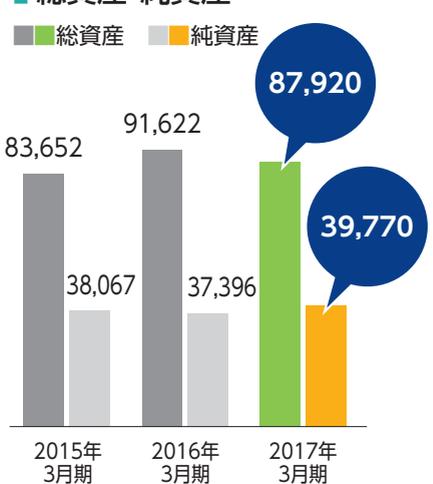
## ■ 経常利益



## ■ 親会社株主に帰属する当期純利益



## ■ 総資産・純資産



### お知らせ

## スペシャルオリンピックス日本および スペシャルオリンピックス日本・東京の支援企業に!



当社は、「スペシャルオリンピックス日本」およびその地区組織である「スペシャルオリンピックス日本・東京」の支援企業になりました。

スペシャルオリンピックスとは、知的障害のある人たちにさまざまなスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を、年間を通じ提供している国際的なスポーツ組織です。日本国内の本部組織としてスペシャルオリンピックス日本は国内での大会・競技会の開催、世界大会への日本選手団派遣やコーチ・ボランティアの育成を行い、スペシャルオリンピックス日本・東京は地区組織としてスポーツプログラムなどの地域に根差した日常的な活動を行っています。

スペシャルオリンピックスでは、オリンピック同様、4年に1度夏季・冬季の世界大会が開催されています。2017年3月18日から3月24日には、オーストリアにて冬季世界大会が開催され、107カ国、約2,700人のアスリートが参加、日本からはコーチ等も含め選手団81名が参加し白熱したゲームを繰り広げました。

当社は、両団体を支援するとともに、今後もさまざまな活動を通じ社会に貢献していきます。



フロアホッケー



アルペンスキー

写真提供: スペシャルオリンピックス日本

## ■ 当社の概要 (2017年3月31日現在)

商号	新日本空調株式会社 Shin Nippon Air Technologies Co., Ltd.
設立年月日	昭和44年10月1日
本社所在地	〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-31-1 浜町センタービル
資本金	51億5,860万円
従業員数	1,531名(連結)、1,033名(単体)

## ■ 株式の状況 (2017年3月31日現在)

発行可能株式総数	84,252,100株
発行済株式の総数	25,282,225株
株主数	5,173名

## ■ 大株主 (2017年3月31日現在)

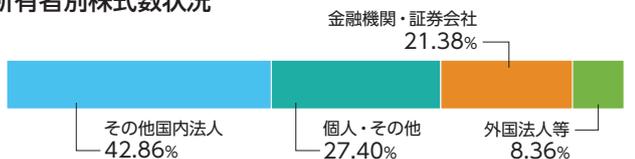
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
新日本空調協和会	2,007	7.93
インタートラストトラスティーズ(ケイマン) リミテッド ソールリー イン イッツ キャパシティー アズトラスティー オブ ジャパン アップ	1,382	5.46
三井物産株式会社	1,266	5.00
株式会社東芝	1,255	4.96
株式会社三井住友銀行	1,006	3.98
三井住友信託銀行株式会社	1,000	3.95
新日本空調従業員持株会	998	3.95
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	863	3.41
日本電設工業株式会社	760	3.00
株式会社東京エネシス	571	2.26

## ■ 株式分布状況 (2017年3月31日現在)

### 所有数別状況



### 所有者別株式数状況



個人・その他	4,809名	外国法人等	66名
その他国内法人	248名	金融機関・証券会社	50名

## ■ 役員 (2017年6月23日現在)

代表取締役社長	夏井 博史	取締役 上席執行役員	山田 勇夫
専務取締役 専務執行役員	宇佐美 威司	社外取締役 (非常勤)	森信 茂樹
常務取締役 常務執行役員	洲野 聡志	社外取締役 (非常勤)	水野 靖史
常務取締役 常務執行役員	赤松 敬一	社外監査役	壺岐尾 透
常務取締役 常務執行役員	大宮 祥光	監査役	楠田 守雄
取締役 上席執行役員	下元 智史	社外監査役 (非常勤)	鶴野 隆一
取締役 上席執行役員	遠藤 清志	社外監査役 (非常勤)	城之尾 辰美

## ■ 株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日

定時株主総会 6月開催

基準日 定時株主総会 3月31日  
 期末配当 3月31日  
 中間配当 9月30日

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内1丁目4番1号  
 三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号  
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

電話お問合せ先 ☎ 0120-782-031

1単元の株式数 100株

公告方法 電子公告の方法により、当社ホームページの下記アドレスに掲載して行います。  
<http://www.snk.co.jp/>  
 ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載いたします。

各種手続き 氏名・住所変更、単元未満株式の買取等、株式に関する各種お手続きは、ご利用の証券会社へお問合せください。  
 なお、未払配当金のお支払いおよび特別口座に関するお問合せについては、三井住友信託銀行にて承っております。

**未払配当金および特別口座に関するお問合せ先**  
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
 ☎ 0120-782-031 (受付時間:平日 9:00~17:00)  
 URL:<http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

### 株主優待のご案内

#### 対象となる株主さま

- 毎年3月31日現在の株主名簿に記録された300株以上の株式を保有する株主さま
- 毎年9月30日現在の株主名簿に記録された300株以上の株式を保有する株主さまのうち、2年以上継続して保有している株主さま

#### 優待品・贈呈時期

- 2,000円相当のカタログギフト 毎年6月下旬予定
- キッズスマイルQUOカード1,000円分 毎年12月上旬予定